

授業科目	C言語Ⅱ		単位/時間	111時間		
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	森下 浩二		
授業の目的・テーマ	C言語の基本的な文法・記述方法を理解する。 ポインタ、構造体、ファイルの入出力を中心に、C言語の基本を習得する。					
授業の到達目標	サーティファイC言語プログラミング能力認定試験2級(6/24受験)の合格を目標とする。					
授業の計画	1	4h	ポインタ	26	2h	2級対策問題
	2	3h	ポインタ	27	3h	プログラミング実習(基本)
	3	2h	ポインタ	28	4h	プログラミング実習(基本)
	4	3h	練習問題	29	2h	プログラミング実習(基本)
	5	4h	構造体と共用体	30	3h	プログラミング実習(基本)
	6	3h	構造体と共用体	31	4h	プログラミング実習(基本)
	7	2h	練習問題	32	3h	プログラミング実習(基本)
	8	3h	記憶域クラス	33	2h	プログラミング実習(基本)
	9	4h	記憶域クラス	34	3h	プログラミング実習(基本)
	10	3h	練習問題	35	4h	プログラミング実習(基本)
	11	2h	ファイル入出力	36	3h	プログラミング実習(基本)
	12	3h	ファイル入出力	37	2h	プログラミング実習(基本)
	13	4h	練習問題	38		
	14	3h	数学関数、文字列操作関数	39		
	15	2h	練習問題	40		
	16	3h	2級対策問題	41		
	17	4h	2級対策問題	42		
	18	3h	2級対策問題	43		
	19	2h	2級対策問題	44		
	20	4h	2級対策問題	45		
	21	3h	2級対策問題	46		
	22	2h	2級対策問題	47		
	23	3h	2級対策問題	48		
	24	4h	2級対策問題	49		
	25	3h	2級対策問題	50		
授業の方法	講義及び対策問題の実施と解説					
テキスト	無し					
参考文献	情報処理試験合格へのパスポートCプログラミング(ウィネット)					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業態度 3.検定結果					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の活かし方						
履修上の注意事項	講義及び解説時には話をよく聞き、理解に努めること。					

授業科目	C言語Ⅱ	単位/時間	60時間			
開講学科等	システム工学科2年	担当教員	森下 浩二			
授業の目的 ・テーマ	C言語の基本的な文法および開発ツールの使い方を習得する。					
授業の 到達目標	C言語の基本的な文法等を理解して、基本的なプログラムを作成できることを目標とする。					
授業の 計画	1	3h	プログラミング実習 (応用)	26		
	2	3h	プログラミング実習 (応用)	27		
	3	3h	プログラミング実習 (応用)	28		
	4	3h	プログラミング実習 (応用)	29		
	5	3h	プログラミング実習 (応用)	30		
	6	3h	プログラミング実習 (応用)	31		
	7	3h	プログラミング実習 (応用)	32		
	8	3h	プログラミング実習 (応用)	33		
	9	3h	プログラミング実習 (応用)	34		
	10	3h	プログラミング実習 (応用)	35		
	11	3h	プログラミング実習 (応用)	36		
	12	3h	プログラミング実習 (応用)	37		
	13	3h	プログラミング実習 (応用)	38		
	14	3h	プログラミング実習 (応用)	39		
	15	3h	プログラミング実習 (応用)	40		
	16	3h	演習課題	41		
	17	3h	演習課題	42		
	18	3h	演習課題	43		
	19	3h	演習課題	44		
	20	3h	演習課題	45		
	21			46		
	22			47		
	23			48		
	24			49		
	25			50		
授業の方法	講義及び実習					
テキスト	無し					
参考文献	情報処理試験合格へのパスポートC言語実習問題集 (ウィネット)					
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 演習課題					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の 活かし方						
履修上の 注意事項	講義及び解説時には話をよく聞き、理解に努めること。					

授業科目	システム設計		単位/時間	70時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	濱渦 昇	
授業の目的・テーマ	前期は主に座学で設計手法や実際の現場で使用されているツールなどを学ぶ。後期は実習を通して、外部設計について学ぶ。				
授業の到達目標	設計の手法について理解する。				
授業の計画	1	2h	議事録の取り方	26	
	2	1h	環境構築について	27	
	3	2h	ライセンス	28	
	4	3h	バージョン管理ツール	29	
	5	6h	ブレインストーミングとKJ法	30	
	6	12h	レゴスクラム	31	
	7	3h	マインドマップ	32	
	8	3h	開発言語とフレームワーク	33	
	9	2h	グループウェア・チャットウェア	34	
	10	3h	環境構築	35	
	11	3h	WBSとガントチャート	36	
	12	30h	外部設計（進捗により追加仕様を出す）	37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	前期（座学・実習）、後期（実習）				
テキスト	自作資料				
参考文献	なし				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業態度 3.成果物				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○	
実務経験	SE・プログラマとしてシステム開発を5年				
実務経験の活かし方	どの様な場面で必要になる手法かを説明する。				
履修上の注意事項	設計では文章力も必要になるので、人に読ませる文章を書くように心がける。				

授業科目	システム設計	単位/時間	20時間
開講学科等	システム工学科2年	担当教員	伊井 洋平
授業の目的・テーマ	ソフトウェア品質に関する基礎知識、およびソフトウェアテスト設計に関する基本スキルを身に付ける。		
授業の到達目標	ソフトウェア開発において、品質目標を定め、適切なソフトウェアテストを計画し実施することができる。		
授業の計画	1	IT業界や開発プロジェクト	26
	2	ソフトウェアテストについて	27
	3	テストの実行体験【Before】	28
	4	テスト体験の振り返り（改善策を検討）	29
	5	品質とは何か#1	30
	6	品質とは何か#2	31
	7	品質基準	32
	8	テストプロセス	33
	9	テストケース…正確に情報伝達するには	34
	10	テストの観点	35
	11	テスト技法…同値分割法	36
	12	テスト技法…境界値分析法	37
	13	テスト技法…組み合わせテスト#1	38
	14	テスト技法…組み合わせテスト#2	39
	15	テスト技法…パターン表の作成#1	40
	16	テスト技法…パターン表の作成#2	41
	17	テストの実行体験【After】	42
	18	テスト体験の振り返り（成果を確認）	43
	19	総合的な復習	44
	20	前期試験（理解度確認試験）	45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	演習主体で進める（内容説明→個人演習→グループ演習→フィードバック）		
テキスト	ソフトウェアテストの基礎		
参考文献	無し		
評価の方法や基準	出席率、授業課題、前期試験 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	各種システムの開発とテスト、およびそのプロセス改善を主導した経験を持つ。		
実務経験の活かし方	上記の実務経験を活かして、ソフトウェアテストに関する実践的な教育を行う。		
履修上の注意事項	演習を多く取り入れ、且つ会話形式で進行するため、積極的な参加をお願いします。		

授業科目	ネットワーク	単位/時間	51時間			
開講学科等	システム工学科2年	担当教員	坂巻 勇			
授業の目的 ・テーマ	開発の現場でよく利用されるLinuxサーバを構築する。					
授業の 到達目標	システム構築上必要となるサーバ環境の構築を体験する。					
授業の 計画	1	4h	VirtualBox, CentOSのインストール	26		
	2	4h	TeraTermのインストールおよび設定	27		
	3	3h	viの使用法確認	28		
	4	4h	Linuxコマンドの確認・練習	29		
	5	3h	バージョン管理ツールのインストール・設定	30		
	6	3h	sambaのインストール・設定	31		
	7	4h	メールサーバのインストール・設定	32		
	8	4h	タスク管理ツールのインストール・設定	33		
	9	4h	WEBサーバのインストール・設定	34		
	10	4h	PHPのインストール・設定	35		
	11	4h	FTPクライアントソフトのインストール	36		
	12	4h	ファイル・ディレクトリのアクセス権限設定	37		
	13	6h	WEBページの作成・公開	38		
	14			39		
	15			40		
	16			41		
	17			42		
	18			43		
	19			44		
	20			45		
	21			46		
	22			47		
	23			48		
	24			49		
	25			50		
授業の方法	実習					
テキスト	自作資料					
参考文献	無し					
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 成果物					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○	
実務経験	現場でのシステム設計・開発・保守・サーバ構築の経験を有する。					
実務経験の 活かし方	現場での活用事例や導入する上での注意点等を含め説明する。					
履修上の 注意事項	ただ手順どおりに実施するのではなく、各作業の内容を確認しながら進めること。					

授業科目	データベースⅡ	単位/時間	40時間		
開講学科等	システム工学科2年	担当教員	川村 剛久		
授業の目的・テーマ	データベースの基本的なテーブル設計を身に付ける。				
授業の到達目標	1年時に学習している内容も復習しながら行い、データベースの基本的なテーブル設計やE-R図を理解し、自身でテーブル設計及びE-R図を作成できるようになる。				
授業の計画	1	1h	関数従属について	26	
	2	1h	テーブルの正規化 (第1正規化)	27	
	3	1h	テーブルの正規化 (第2正規化)	28	
	4	1h	テーブルの正規化 (第3正規化)	29	
	5	2h	参照制約について	30	
	6	2h	E-R図について	31	
	7	4h	テーブル設計書について	32	
	8	4h	正規化演習	33	
	9	1h	非正規化について	34	
	10	1h	導出項目の取り扱いについて	35	
	11	2h	スーパータイプとサブタイプについて①	36	
	12	2h	スーパータイプとサブタイプについて②	37	
	13	2h	サブタイプの切り出し方	38	
	14	4h	演習問題①	39	
	15	4h	演習問題②	40	
	16	4h	演習問題③	41	
	17	4h	演習問題④	42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・演習を中心に行う。				
テキスト	無し				
参考文献	情報処理教科書データベーススペシャリスト・データベーススペシャリスト試験過去問題				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 演習課題				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○				
実務経験	コンピュータ業界・自治体関連システムや財務会計システムの開発等の経験を有する。				
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。また、実務経験をもとに必要性や活かし方を説明していく。				
履修上の注意事項	復習を行うこと。またエラー解決などは、積極的に自己解決の努力をすること。				

授業科目	パソコン概論		単位/時間	16時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	坂巻 勇	
授業の目的・テーマ	コンピュータを構成する各パーツの名称や役割・構造を理解する。				
授業の到達目標	コンピュータの性能調査や、Windowsパソコンの自作等ができるレベルを目標とする。				
授業の計画	1	2h	パソコンを構成するパーツ・CPUについて①	26	
	2	2h	CPUについて②	27	
	3	2h	マザーボードについて	28	
	4	2h	メモリについて	29	
	5	2h	HDD/SSDについて	30	
	6	2h	光学ドライブ等について	31	
	7	2h	ビデオカード、ケース等について	32	
	8	2h	Windowsの歴史	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義を中心に行う。				
テキスト	部分的に自作資料				
参考文献	intel 及び Microsoft 等のホームページ など				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	パソコンの構築、サーバ構築の経験を有する。				
実務経験の活かし方	パソコンの構造から、トラブル時の保守・更改で現場の機器を扱った際の経験を交え説明する。				
履修上の注意事項	口頭での説明が多くなるためメモを取るように心がけること。				

授業科目	社会問題	単位/時間	16時間	
開講学科等	システム工学科2年	担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	社会人として必要な社会問題の知識を習得させる			
授業の到達目標	以下のスキルを身に付けさせる ・社会問題に対して内容を把握することができる。 ・社会問題に対して自身の持っている情報と考えを相手に正確に伝えることができる。			
授業の計画	1	2h 問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	26	
	2	2h 問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	27	
	3	2h 問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	28	
	4	2h 問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	29	
	5	2h 問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	30	
	6	2h 問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	31	
	7	2h 問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	32	
	8	2h 問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	33	
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15		40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義、演習			
テキスト	なし			
参考文献	なし			
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 授業内課題			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	コンピュータ業界・自治体関連システムや財務会計システムの開発等の経験を有する。			
実務経験の活かし方	実際に企業で行われているシステム開発・管理の実例を交えて講義を行う。			
履修上の注意事項	授業内で課題を行い、理解度を確認していく。			

授業科目	国家試験対策(応用情報 春期 マネジメント)		単位/時間	24時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	中川 隆	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるマネジメントの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	システム監査概要解説	26	
	2	6h	練習問題(午前問題)	27	
	3	6h	練習問題(プロジェクトマネジメント)	28	
	4	6h	練習問題(ITサービスマネジメント)	29	
	5	4h	練習問題(監査)	30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 春期 ストラテジ)		単位/時間	21時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	公文 伸二	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるストラテジの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	キャッシュフロー・財務指標	26	
	2	6h	練習問題(午前問題)	27	
	3	14h	練習問題(経営戦略)	28	
	4			29	
	5			30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 春期 コンピュータシステム・アーキテクチャ)			単位/時間	38時間
開講学科等	システム工学科2年			担当教員	橋本 貴之
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるコンピュータシステム・アーキテクチャの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	練習問題実施・解説 1	26	
	2	2h	練習問題実施・解説 2	27	
	3	2h	練習問題実施・解説 3	28	
	4	2h	練習問題実施・解説 4	29	
	5	2h	練習問題実施・解説 5	30	
	6	2h	練習問題実施・解説 6	31	
	7	2h	練習問題実施・解説 7	32	
	8	2h	練習問題実施・解説 8	33	
	9	3h	過去問題実施・解説 1	34	
	10	3h	過去問題実施・解説 2	35	
	11	3h	過去問題実施・解説 3	36	
	12	3h	過去問題実施・解説 4	37	
	13	3h	過去問題実施・解説 5	38	
	14	3h	過去問題実施・解説 6	39	
	15	2h	過去問題実施・解説 7	40	
	16	2h	過去問題実施・解説 8	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 春期 情報システム開発)		単位/時間	22時間	
開講学科等	システム工学科 2年		担当教員	川久保 あゆみ	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題される情報システム開発の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	過去問題実施・解説 1	26	
	2	3h	過去問題実施・解説 2	27	
	3	3h	過去問題実施・解説 3	28	
	4	3h	過去問題実施・解説 4	29	
	5	3h	過去問題実施・解説 5	30	
	6	3h	過去問題実施・解説 6	31	
	7	2h	過去問題実施・解説 7	32	
	8	2h	過去問題実施・解説 8	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 春期 組込みシステム開発)		単位/時間	15時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	橋本 貴之	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題される組込みシステム開発の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	専門用語解説	26	
	2	2h	過去問題実施・解説 1	27	
	3	2h	過去問題実施・解説 2	28	
	4	2h	過去問題実施・解説 3	29	
	5	2h	過去問題実施・解説 4	30	
	6	2h	過去問題実施・解説 5	31	
	7	2h	過去問題実施・解説 6	32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 春期 データベース)		単位/時間	30時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるデータベースの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	データベースの基礎	26	
	2	2h	正規化(復習)、非正規化	27	
	3	2h	関係データベースの演算	28	
	4	2h	SELECT文(復習)	29	
	5	2h	CREATE TABLE文	30	
	6	1h	ビューの定義、トリガ	31	
	7	2h	オブジェクトの処理権限	32	
	8	2h	トランザクション制御	33	
	9	2h	DBMSの障害回復管理	34	
	10	2h	分散データベース	35	
	11	2h	データウェアハウス、データマイニング	36	
	12	2h	応用情報過去問題・解説1	37	
	13	2h	応用情報過去問題・解説2	38	
	14	2h	応用情報過去問題・解説3	39	
	15	2h	応用情報過去問題・解説4	40	
	16	2h	応用情報過去問題・解説5	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験過去問問題 情報処理教科書データベーススペシャリスト他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 春期 アルゴリズム)		単位/時間	45時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	中川 隆	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	練習問題実施・解説 1	26	
	2	2h	練習問題実施・解説 2	27	
	3	2h	練習問題実施・解説 3	28	
	4	2h	配列処理(文字列) 1	29	
	5	2h	配列処理(文字列) 2	30	
	6	4h	データ構造 1	31	
	7	4h	データ構造 2	32	
	8	2h	データ構造 3	33	
	9	4h	木構造 1	34	
	10	4h	木構造 2	35	
	11	1h	木構造 3	36	
	12	1h	探索処理	37	
	13	3h	ハッシュ法 1	38	
	14	2h	ハッシュ法 2	39	
	15	2h	整列処理 1	40	
	16	2h	応用整列処理 1	41	
	17	2h	応用整列処理 2	42	
	18	2h	応用整列処理 3	43	
	19	2h	応用整列処理 4	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 春期 ネットワーク・情報セキュリティ)		単位/時間	37時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	濱渦 昇	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるネットワーク・情報セキュリティの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IPプロトコルスイート	26	
	2	2h	L3SW・ルーティング IP	27	
	3	3h	LAN (IEEE802) L2SW・MAC	28	
	4	2h	HTTP DNS HDCP	29	
	5	2h	SMTP POP IMAP	30	
	6	2h	暗号化 (AES RSA)	31	
	7	2h	デジタル署名 (TLS) PKI	32	
	8	3h	認証方式	33	
	9	3h	ウイルス対策・攻撃手法の種類と対策	34	
	10	2h	本試験過去問題実施・解説 1	35	
	11	2h	本試験過去問題実施・解説 2	36	
	12	2h	本試験過去問題実施・解説 3	37	
	13	2h	本試験過去問題実施・解説 4	38	
	14	2h	本試験過去問題実施・解説 5	39	
	15	2h	本試験過去問題実施・解説 6	40	
	16	2h	本試験過去問題実施・解説 7	41	
	17	2h	本試験過去問題実施・解説 8	42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 春期 模擬試験)		単位/時間	28時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5			30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(基本情報 春期 情報セキュリティ)		単位/時間	29時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	濱渦 昇	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題される情報セキュリティ分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IP・LAN間接続装置	26	
	2	3h	IPアドレス、プロトコル、FW	27	
	3	3h	暗号化とデジタル署名	28	
	4	3h	マルウェア	29	
	5	3h	練習問題実施・解説 1	30	
	6	3h	練習問題実施・解説 2	31	
	7	3h	練習問題実施・解説 3	32	
	8	3h	練習問題実施・解説 4	33	
	9	3h	練習問題実施・解説 5	34	
	10	3h	練習問題実施・解説 6	35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅡ システムの利用と開発編 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(基本情報 春期 アルゴリズム)		単位/時間	64時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	森下 浩二	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	探索処理	26	
	2	4h	整列処理	27	
	3	4h	文字列操作処理	28	
	4	2h	データ構造 1	29	
	5	2h	データ構造 2	30	
	6	2h	データ構造 3	31	
	7	3h	ハッシュ法	32	
	8	2h	再帰呼び出し	33	
	9	3h	応用整列処理 1	34	
	10	3h	応用整列処理 2	35	
	11	3h	練習問題実施・解説 1	36	
	12	3h	練習問題実施・解説 2	37	
	13	3h	練習問題実施・解説 3	38	
	14	3h	練習問題実施・解説 4	39	
	15	3h	練習問題実施・解説 5	40	
	16	3h	練習問題実施・解説 6	41	
	17	3h	練習問題実施・解説 7	42	
	18	3h	練習問題実施・解説 8	43	
	19	3h	練習問題実施・解説 9	44	
	20	3h	練習問題実施・解説 10	45	
	21	3h	練習問題実施・解説 11	46	
	22	3h	練習問題実施・解説 12	47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	無し				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストIVアルゴリズム編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(基本情報 春期 オブジェクト指向)		単位/時間	20時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	内藤 正勝	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるC言語の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	オブジェクト指向、オブジェクトとクラス	26	
	2	1h	プログラミングの基本	27	
	3	1h	オブジェクト配列、メンバ変数	28	
	4	1h	複数の数値データ属性をもつクラス	29	
	5	1h	データ構造の表現	30	
	6	1h	文字列操作のクラス	31	
	7	1h	練習問題実施・解説 1	32	
	8	1h	練習問題実施・解説 2	33	
	9	1h	練習問題実施・解説 3	34	
	10	1h	練習問題実施・解説 4	35	
	11	1h	練習問題実施・解説 5	36	
	12	1h	練習問題実施・解説 6	37	
	13	1h	練習問題実施・解説 7	38	
	14	1h	練習問題実施・解説 8	39	
	15	1h	練習問題実施・解説 9	40	
	16	1h	練習問題実施・解説 10	41	
	17	1h	練習問題実施・解説 11	42	
	18	1h	練習問題実施・解説 12	43	
	19	1h	練習問題実施・解説 13	44	
	20	1h	練習問題実施・解説 14	45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストV プログラミングC言語編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(基本情報 春期 模擬試験)		単位/時間	24時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 5	30	
	6	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 6	31	
	7	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 7	32	
	8	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 8	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 秋期 マネジメント)		単位/時間	24時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	中川 隆	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるマネジメントの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	システム監査概要解説	26	
	2	6h	練習問題(午前問題)	27	
	3	6h	練習問題(プロジェクトマネジメント)	28	
	4	6h	練習問題(ITサービスマネジメント)	29	
	5	4h	練習問題(監査)	30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 秋期 ストラテジ)		単位/時間	20時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	公文 伸二	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるストラテジの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	キャッシュフロー・財務指標	26	
	2	6h	練習問題(午前問題)	27	
	3	13h	練習問題(経営戦略)	28	
	4			29	
	5			30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 秋期 コンピュータシステム・アーキテクチャ)			単位/時間	38時間
開講学科等	システム工学科2年			担当教員	橋本 貴之
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるコンピュータシステム・アーキテクチャの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	練習問題実施・解説 1	26	
	2	2h	練習問題実施・解説 2	27	
	3	2h	練習問題実施・解説 3	28	
	4	2h	練習問題実施・解説 4	29	
	5	2h	練習問題実施・解説 5	30	
	6	2h	練習問題実施・解説 6	31	
	7	2h	練習問題実施・解説 7	32	
	8	2h	練習問題実施・解説 8	33	
	9	3h	過去問題実施・解説 1	34	
	10	3h	過去問題実施・解説 2	35	
	11	3h	過去問題実施・解説 3	36	
	12	3h	過去問題実施・解説 4	37	
	13	3h	過去問題実施・解説 5	38	
	14	3h	過去問題実施・解説 6	39	
	15	2h	過去問題実施・解説 7	40	
	16	2h	過去問題実施・解説 8	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 秋期 情報システム開発)		単位/時間	22時間	
開講学科等	システム工学科 2年		担当教員	川久保 あゆみ	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題される情報システム開発の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	過去問題実施・解説 1	26	
	2	3h	過去問題実施・解説 2	27	
	3	3h	過去問題実施・解説 3	28	
	4	3h	過去問題実施・解説 4	29	
	5	3h	過去問題実施・解説 5	30	
	6	3h	過去問題実施・解説 6	31	
	7	2h	過去問題実施・解説 7	32	
	8	2h	過去問題実施・解説 8	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 秋期 組込みシステム開発)		単位/時間	15時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	橋本 貴之	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題される組込みシステム開発の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	専門用語解説	26	
	2	2h	過去問題実施・解説 1	27	
	3	2h	過去問題実施・解説 2	28	
	4	2h	過去問題実施・解説 3	29	
	5	2h	過去問題実施・解説 4	30	
	6	2h	過去問題実施・解説 5	31	
	7	2h	過去問題実施・解説 6	32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 秋期 データベース)		単位/時間	30時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるデータベースの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	データベースの基礎	26	
	2	2h	正規化(復習)、非正規化	27	
	3	2h	関係データベースの演算	28	
	4	2h	SELECT文(復習)	29	
	5	2h	CREATE TABLE文	30	
	6	1h	ビューの定義、トリガ	31	
	7	2h	オブジェクトの処理権限	32	
	8	2h	トランザクション制御	33	
	9	2h	DBMSの障害回復管理	34	
	10	2h	分散データベース	35	
	11	2h	データウェアハウス、データマイニング	36	
	12	2h	応用情報過去問題・解説1	37	
	13	2h	応用情報過去問題・解説2	38	
	14	2h	応用情報過去問題・解説3	39	
	15	2h	応用情報過去問題・解説4	40	
	16	2h	応用情報過去問題・解説5	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験過去問問題 情報処理教科書データベーススペシャリスト他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 秋期 アルゴリズム)		単位/時間	44時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	中川 隆	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	練習問題実施・解説 1	26	
	2	2h	練習問題実施・解説 2	27	
	3	2h	練習問題実施・解説 3	28	
	4	2h	配列処理(文字列) 1	29	
	5	2h	配列処理(文字列) 2	30	
	6	4h	データ構造 1	31	
	7	4h	データ構造 2	32	
	8	2h	データ構造 3	33	
	9	4h	木構造 1	34	
	10	4h	木構造 2	35	
	11	1h	木構造 3	36	
	12	1h	探索処理	37	
	13	2h	ハッシュ法 1	38	
	14	2h	ハッシュ法 2	39	
	15	2h	整列処理 1	40	
	16	2h	応用整列処理 1	41	
	17	2h	応用整列処理 2	42	
	18	2h	応用整列処理 3	43	
	19	2h	応用整列処理 4	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 秋期 ネットワーク・情報セキュリティ)		単位/時間	37時間	
開講学科等	システム工学科 2年		担当教員	濱渦 昇	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるネットワーク・情報セキュリティの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IPプロトコルスイート	26	
	2	2h	L3SW・ルーティング IP	27	
	3	3h	LAN (IEEE802) L2SW・MAC	28	
	4	2h	HTTP DNS HDCP	29	
	5	2h	SMTP POP IMAP	30	
	6	2h	暗号化 (AES RSA)	31	
	7	2h	デジタル署名 (TLS) PKI	32	
	8	3h	認証方式	33	
	9	3h	ウイルス対策・攻撃手法の種類と対策	34	
	10	2h	本試験過去問題実施・解説 1	35	
	11	2h	本試験過去問題実施・解説 2	36	
	12	2h	本試験過去問題実施・解説 3	37	
	13	2h	本試験過去問題実施・解説 4	38	
	14	2h	本試験過去問題実施・解説 5	39	
	15	2h	本試験過去問題実施・解説 6	40	
	16	2h	本試験過去問題実施・解説 7	41	
	17	2h	本試験過去問題実施・解説 8	42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(応用情報 秋期 模擬試験)		単位/時間	28時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5			30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(基本情報 秋期 情報セキュリティ)		単位/時間	45時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	濱渦 昇	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題される情報セキュリティ分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IP・LAN間接続装置	26	
	2	2h	IPアドレス、プロトコル、FW	27	
	3	3h	暗号化とデジタル署名	28	
	4	2h	マルウェア	29	
	5	3h	練習問題実施・解説 1	30	
	6	3h	練習問題実施・解説 2	31	
	7	3h	練習問題実施・解説 3	32	
	8	3h	練習問題実施・解説 4	33	
	9	3h	練習問題実施・解説 5	34	
	10	3h	練習問題実施・解説 6	35	
	11	3h	練習問題実施・解説 7	36	
	12	3h	練習問題実施・解説 8	37	
	13	3h	練習問題実施・解説 9	38	
	14	3h	練習問題実施・解説 10	39	
	15	3h	練習問題実施・解説 11	40	
	16	3h	練習問題実施・解説 12	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅡ システムの利用と開発編 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(基本情報 秋期 アルゴリズム)			単位/時間	96時間	
開講学科等	システム工学科2年			担当教員	森下 浩二	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。					
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。					
授業の計画	1	3h	探索処理	26	3h	練習問題実施・解説 16
	2	4h	整列処理	27	3h	練習問題実施・解説 17
	3	4h	文字列操作処理	28	3h	練習問題実施・解説 18
	4	2h	データ構造 1	29	3h	練習問題実施・解説 19
	5	3h	データ構造 2	30	3h	練習問題実施・解説 20
	6	3h	データ構造 3	31	3h	練習問題実施・解説 21
	7	3h	ハッシュ法	32	3h	練習問題実施・解説 22
	8	2h	再帰呼び出し	33		
	9	3h	応用整列処理 1	34		
	10	3h	応用整列処理 2	35		
	11	3h	練習問題実施・解説 1	36		
	12	3h	練習問題実施・解説 2	37		
	13	3h	練習問題実施・解説 3	38		
	14	3h	練習問題実施・解説 4	39		
	15	3h	練習問題実施・解説 5	40		
	16	3h	練習問題実施・解説 6	41		
	17	3h	練習問題実施・解説 7	42		
	18	3h	練習問題実施・解説 8	43		
	19	3h	練習問題実施・解説 9	44		
	20	3h	練習問題実施・解説 10	45		
	21	3h	練習問題実施・解説 11	46		
	22	3h	練習問題実施・解説 12	47		
	23	3h	練習問題実施・解説 13	48		
	24	3h	練習問題実施・解説 14	49		
	25	3h	練習問題実施・解説 15	50		
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説					
テキスト	無し					
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストIVアルゴリズム編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の活かし方						
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。					

授業科目	国家試験対策(基本情報 秋期 オブジェクト指向)		単位/時間	32時間		
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	内藤 正勝		
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるC言語の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。					
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。					
授業の計画	1	1h	オブジェクト指向、オブジェクトとクラス	26	1h	練習問題実施・解説 20
	2	1h	プログラミングの基本	27	1h	練習問題実施・解説 21
	3	1h	オブジェクト配列、メンバ変数	28	1h	練習問題実施・解説 22
	4	1h	複数の数値データ属性をもつクラス	29	1h	練習問題実施・解説 23
	5	1h	データ構造の表現	30	1h	練習問題実施・解説 24
	6	1h	文字列操作用のクラス	31	1h	練習問題実施・解説 25
	7	1h	練習問題実施・解説 1	32	1h	練習問題実施・解説 26
	8	1h	練習問題実施・解説 2	33		
	9	1h	練習問題実施・解説 3	34		
	10	1h	練習問題実施・解説 4	35		
	11	1h	練習問題実施・解説 5	36		
	12	1h	練習問題実施・解説 6	37		
	13	1h	練習問題実施・解説 7	38		
	14	1h	練習問題実施・解説 8	39		
	15	1h	練習問題実施・解説 9	40		
	16	1h	練習問題実施・解説 10	41		
	17	1h	練習問題実施・解説 11	42		
	18	1h	練習問題実施・解説 12	43		
	19	1h	練習問題実施・解説 13	44		
	20	1h	練習問題実施・解説 14	45		
	21	1h	練習問題実施・解説 15	46		
	22	1h	練習問題実施・解説 16	47		
	23	1h	練習問題実施・解説 17	48		
	24	1h	練習問題実施・解説 18	49		
	25	1h	練習問題実施・解説 19	50		
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説					
テキスト	なし					
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストV プログラミングC言語編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の活かし方						
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。					

授業科目	国家試験対策(基本情報 秋期 模擬試験)		単位/時間	30時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 5	30	
	6	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 6	31	
	7	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 7	32	
	8	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 8	33	
	9	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 9	34	
	10	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 10	35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	ビジネス実務Ⅱ（担任）		単位／時間	36時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	働くこと、生きることについての「考え方」「思い」を醸成させる。				
授業の到達目標	自己分析をし、自分がこれからどうなりたいかを考えることができる。				
授業の計画	1	1h	インターンシップについて	26	
	2	3h	マッチングセミナーの説明	27	
	3	5h	マッチングセミナー参加企業の説明	28	
	4	4h	マッチングセミナーフィードバック	29	
	5	7h	インターンシップに向けての準備	30	
	6	16h	就職に向け、自己PR、志望動機を考える	31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	座学				
テキスト	なし				
参考文献	企業HP等				
評価の方法や基準	授業態度、出席率 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	自分の将来について真剣に考える。				

授業科目	ビジネス実務Ⅱ	単位／時間	8時間
開講学科等	システム工学科 2年	担当教員	濱田 恵美
授業の目的・テーマ	人間関係を円滑にするための“知恵”であるマナーの知識を具体的に教えることに加え、演習などを通じて学生の意識を高め、よりよい人間関係を築くために必要なコミュニケーションを身に付けさせることを目的とし、習った知識を日常生活の中で実践することの大切さを徹底させるような授業の進行・運営を心がける		
授業の到達目標	相手を敬い、思いやる気持ちを上手に相手に伝えるためには、どのようにすべきかについても常に考え、配慮ある行動ができる人になれるよう、また社会人に必要なビジネスマナー等を学生のうちに少しでも習得できることで、学生から社会人になることへの不安をなくし、ひいては社会人として自信を持って行動できるよう繋げていくことを到達目標とする		
授業の計画	1	10/17 就職研修に向けて	26
	2	10/31 就職研修に向けて	27
	3	11/7 就職研修に向けて	28
	4	11/14 就職研修に向けて	29
	5	11/21 就職研修に向けて	30
	6	11/28 就職研修に向けて	31
	7	1/16 来客応対	32
	8	1/23 電話応対	33
	9		34
	10		35
	11		36
	12		37
	13		38
	14		39
	15		40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	レクチャー・ロールプレイング		
テキスト/参考文献	日本マナー・プロトコール協会 マナー・プロトコールの基礎知識 / ウィネット 実践ビジネスマナー		
評価の方法や基準	出席率・態度・身だしなみ・演習の取り組み方・筆記テスト・実技テスト 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	金融機関において、受付・来客応対および電話応対等を担当		
実務経験の活かし方	社会人としての必要な心構えやマナーについて、また来客応対や電話応対等の演習に活かす		
履修上の注意事項	挨拶の励行や正しい言葉遣いを身に付けるとともに、適切な態度で授業に臨むことを求める		

授業科目	ビジネス実務Ⅱ（B検）		単位／時間	16時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	川久保 あゆみ	
授業の目的・テーマ	検定過去問題を解きながら、社会人として必要な考え方や動作等の知識を習得する。				
授業の到達目標	以下の試験に合格することを到達目標とする。 ジョブパス3級				
授業の計画	1	2h	平成27年度 後期試験問題 演習	26	
	2	2h	平成28年度 前期試験問題 演習	27	
	3	2h	平成28年度 後期試験問題 演習	28	
	4	2h	平成29年度 前期試験問題 演習	29	
	5	2h	平成29年度 後期試験問題 演習	30	
	6	2h	平成30年度 前期試験問題 演習	31	
	7	2h	平成30年度 後期試験問題 演習	32	
	8	2h	令和 元年度 前期試験問題 演習	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義を中心に行う。また練習問題を解き解説する。				
テキスト	2020年度版 B検ビジネス能力検定ジョブパス3級 公式試験問題集				
参考文献	無し				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 ※複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	解き直しを必ず行い、間違ったところを正しく理解すること。				

授業科目	ビジネス実務Ⅱ（就職研修）		単位／時間	29時間	
開講学科等	システム工学科2年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	学生の就職に対する意識を高め、意欲をかき立てる。 入社試験形式での個人面接・集団面接練習及び筆記・作文模擬試験を行い、学生が希望する企業の入社試験に対する準備を行う。				
授業の到達目標	希望する業界・職種・企業の就職試験に自信を持って挑めるようにする。				
授業の計画	1	3h	先輩の就職活動（講話）・質疑応答	26	
	2	4h	文字（履歴書）の書き方	27	
	3	3h	個人面接①練習、筆記・作文模擬試験	28	
	4	3h	個人面接① フィードバック	29	
	5	3h	個人面接②練習、筆記模擬試験	30	
	6	3h	集団面接練習、作文模擬試験	31	
	7	6h	個人面接②、集団面接 フィードバック	32	
	8	4h	合同就職セミナー参加	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	練習（実習）、フィードバック（講義）、セミナー参加				
テキスト	なし				
参考文献	なし				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業への取り組み状況 ※複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	自分の将来に直結する科目であるため、真剣に受講すること。				

授業科目	一般常識	単位/時間	54時間			
開講学科等	システム工学科2年	担当教員	川村 剛久			
授業の目的 ・テーマ	就職試験に備えて、主にSPI3の非言語対策を行い、計算問題を習得する (前期30時間、後期18時間)					
授業の 到達目標	就職試験(筆記試験)合格					
授業の 計画	1	3h	損益算	26		
	2	3h	料金算①	27		
	3	3h	料金算②	28		
	4	3h	仕事算①	29		
	5	3h	仕事算②	30		
	6	3h	速度算①	31		
	7	3h	速度算②	32		
	8	3h	濃度算①	33		
	9	3h	濃度算②	34		
	10	3h	復習、前期試験	35		
	11	3h	順列、組合せ、確率①	36		
	12	3h	順列、組合せ、確率②	37		
	13	3h	数列、集合①	38		
	14	3h	数列、集合②	39		
	15	3h	推論、命題①	40		
	16	3h	推論、命題②	41		
	17	3h	図形	42		
	18	3h	復習、後期試験	43		
	19			44		
	20			45		
	21			46		
	22			47		
	23			48		
	24			49		
	25			50		
授業の方法	講義、答案練習					
テキスト	無し					
参考文献	SPI3、公務員試験教養問題など					
評価の方法 や基準	授業への取り組み方、期末試験の点数、出席率(詳細は初日に説明)					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の 活かし方						
履修上の 注意事項	配布プリントの問題から期末試験を作成するので、紛失ないように保管しておくこと					